

# 折

四年

画数 7  
筆順 オソ

オ折折  
ソセツ  
おり・おひるられる

成り立ち



木を切る道具の「斧」の形をした「斤(新2168)」と、「マ」とを組み合わせて作った字です。

「手に斧をもつこと」を表した字で、「木を切る」とことを表したものです。それで、「切」と同じ音で読まれるわけです。「折」と「切」とは同じ意味の字でしたが「折」は「おる」「くじく」という意味に使われるようになりました。それは、斧で木を切る場合、木をおるようにして切るからです。【例】挫折。

また、「まげる」「まがる」という意味にも使われます。【例】屈折、右折。

使い方

▽犬小屋を作ろうとして、釘を打っていたら、釘が折れまがってしまいました。おとうさんが釘を打つところを見てみると、一度も折ったりしたことはないのに、ぼくはどうして折るのかわかりません。

▽わたしは早く夏休みが来ないかと指折り数えて待っています。夏休みには一家そろって海へ行く約束があるからです。

熟語例

▽挫折(くじけ折れること。目的を達成できずに、中途でだめになること。「計画が挫折したので、がっかりした」などと、いいます。) ※挫(ざ)は、常用漢字表外字

▽屈折(折れまがること。「この道はひどく屈折していたので、近そうなのに時間がかかった」などというふう

に、つかいます。)

▽右折(右にまがること。「自動車の右折は、ここでは禁止されています」などというふう

使い方

▽生活が豊かになった現代の日本でも、節約ということは大事です。エネルギーや資源には限りがあります。節度をもって生活することが大切です。

▽ぼくは、覚えてたての曲の節を口笛でふくことがよくあります。おかあさんは、口笛はやめなさいというけれど、楽しい曲の節を自分で歌ってみたり、口笛でふいてみたりするのは、ゆかいでやめられません。

熟語例

▽節約(むだづかいせず、経済をほどよくしめくくること。儉約)

▽節度(行きすぎず、ほどのよい度合。「節度のある態度が好ましい」などというふう

に、つかいます。)

▽文節(文章の区切り。「わたしは学校へ行きました」を文節に区切るとすれば、「わたしは一学校へ一歩行きました」と、三つに分けられます。)

▽第一節(文章などの一番最初のまとまり。「この本の第一節に、主人公の姿が書いてある」など)

▽季節(一年を気候で区切った、それぞれの期間。春夏秋冬など)

# 節

四年

画数 13  
筆順 竹 竹 竹 節 節

竹 竹 竹 節 節  
ソソソセツセチ  
ソソ ふうし

成り立ち



竹の葉(ささ)の形を表し、「竹」という意味を表した「竹」<sup>チキ</sup>と、人が正座して折り目正しく食事につくことを表した「即」とを組み合わせて作った字です。

「折り目正しい竹のふし」を表した字です。竹のふしは、「ほどよく竹のみきをしめくくって全体をささえている」ところから、「ほどよくしめくくる」という意味にも使われます。【例】節約、節度。

竹の節が区切られているところから、「文の区切り」の意味にも使われます。【例】文節、第一節。

音楽の一区切りの意味から、「メモディー」の意味にも使われます。【例】曲節、音楽の節。

また、気候で一年を区切った「季節」という使い方もあります。